

地元の農産物を応援

地元で生産された農産物を販売できる施設は農業が盛んな地域にとって重要な場所だ。大衡村では村内にある「万葉・おおひら館」で地元食材や加工品を数多く取り扱っている。

大衡村は宮城県のほぼ中央、仙台市と大崎市の間に位置する人口約5,800人の宮城県唯一の村である。農業が盛んな地域であり、多くの人が農業に勤しんでいる。そのような地域なので地元で作った農産物を販売できる施設は非常に重要だ。



「万葉・おおひら館」には多くの人々が訪れ、村内の方や近くを訪れた方々が帰りに立ち寄って買い物をしている。館長の小川豊秋さん（61）は「大衡村には素晴らしい農産物や直売施設があるのでぜひ足を運んでいただきたい」と話す。

輸入農産物も増え、農業を取り巻く環境は厳しくなっている。しかし、農業が盛んな地域だからこそ、その地域で生産された農産物を地元で提供できる施設は重要であり、その役割が期待されている。